

平成30年度北斗市立小・中学校 全国学力・学習状況調査結果報告について

この調査は、文部科学省が幅広く、全国の児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施していますが、実施教科が5教科のみであることや学習指導要領の全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要です。この結果だけで、学校や児童生徒の評価をしないでいただきたいと思ひます。

北斗市教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果を例年のように大規模校についてのみ公表することといたしました。
 北斗市教育委員会

調査の概要

I 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るために、調査を行っています。また、各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために行っています。

II 調査対象

国・公・私立学校の小学校6年生、中学校3年生の原則として全児童生徒を対象としています。

III 教科に関する調査

○国語A 算数・数学A(主として「知識」に関する問題)

身に付けておかなければ後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようにすることが望ましい知識・技能などを調査します。

○国語B 算数・数学B(主として「活用」に関する問題)

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容を調査します。

○理科(主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を

一体的に出題

身に付けておかなければ後の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活の様々な場面に活用できるようにすることが望ましい知識・技能と知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力などにかかわる内容を調査します。

IV 生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査

○児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境や生活面に関する調査をします。

○学校に対する調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査をします。

V 正答数の少ない層について

全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童・生徒の割合を示しています。「正答数の少ない層」の割合は、低いほどいいこととなります。

小学校

教科に関する調査

〔平均正答率〕

北斗市内小学校 各教科の平均正答率(%) 6年生 442名

	国語A	国語B	算数A	算数B	理科	5教科計
北斗市	72.0	54.0	67.0	50.0	61.0	304.0
全道	70.0	53.0	62.0	49.0	59.0	293.0
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	300.7
全道差	2.0	1.0	5.0	1.0	2.0	11.0
全国差	1.3	-0.7	3.5	-1.5	0.7	3.3

○北斗市では、必要最低限の学力を全ての子どもたちに身に付けさせるため、「正答数の少ない層」の底上げを重点とし、その結果として小・中学校ともに、各教科の平均正答率が全国以上になることを目指しています。

小学校では、国語A、算数A、理科の3教科で、全国・全道の平均正答率を上回っています。北斗市が目指す目標を達成いたしました。国語B、算数Bについては、全国を下回りましたが、全道を上回りました。

○国語Aでは、「話すこと・聞くこと」

「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で、全国の平均正答率を上回っています。「書くこと」で、全国の平均正答率を下回っています。

○国語Bでは、「読むこと」で、全国の平均正答率を上回っています。「話すこと・聞くこと」、「書くこと」で、全国の平均正答率を下回っています。

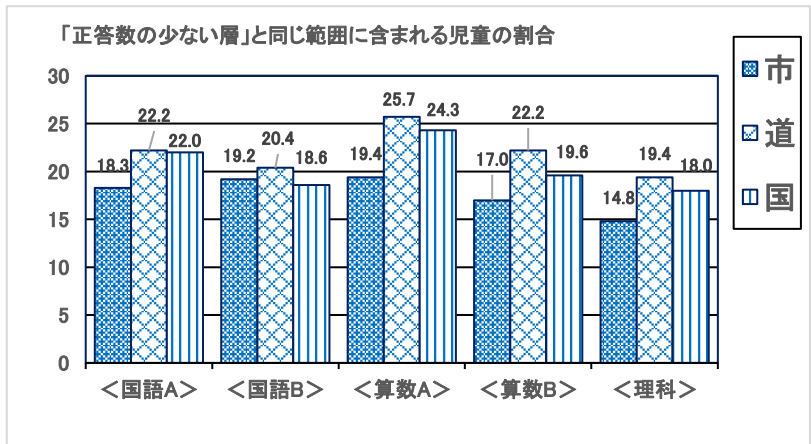
○算数Aでは、「数と計算」、「量と測定」、「図形」、「数量関係」の全ての領域で、全国の平均正答率を上回っています。

○算数Bでは、「図形」で、全国の平均正答率を上回っています。「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」で、全国の平均正答率を下回っています。

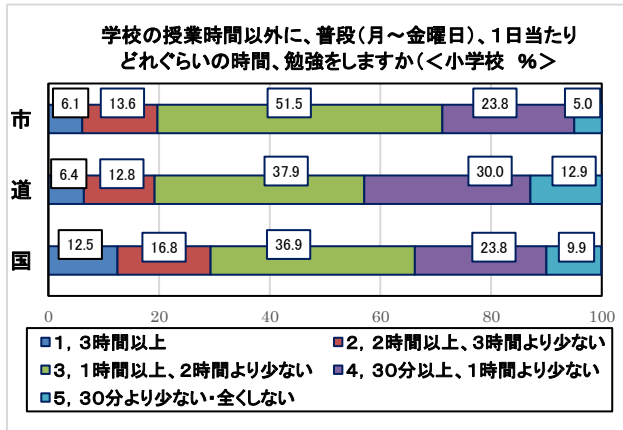
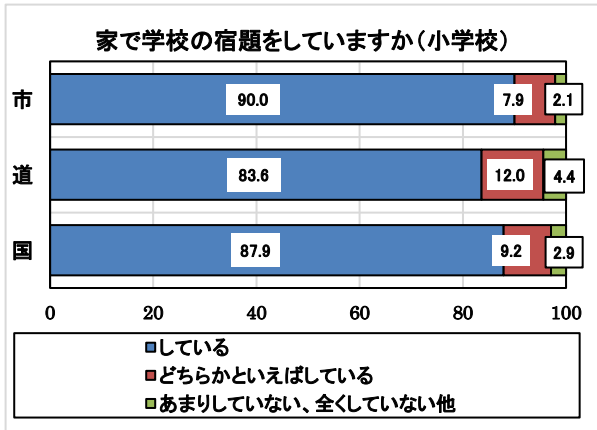
○理科では、「エネルギー」、「生命」で、全国の平均正答率を上回っています。「物質」、「地球」で、全国の平均正答率を下回っています。

《正答数の少ない層の状況》
全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる北斗市の児童生徒の割合を示しています。割合が低いほどいいこととなります。

○小学校では、国語A、算数A、算数B、理科の4教科で、全国・全道の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合が下回っています。国語Bでは、「正答数の少ない層」の割合が全国を上回っていますが、全道を下回っています。



《無解答率の状況》
○全教科60問(国語A12問、国語B8問、算数A14問、算数B10問、理科16問)中、理科の1問で、全国の無解答率と同じですが、他の59問で全国を下回りました。



児童に対する質問紙調査

○学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日まで)、学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)、1日あたり1時間以上勉強している割合が71.2%で、全国・全道を上回っています。(全国66.2% 全道57.1%)

○家で、学校の宿題をしている割合が90.0%で、全国、全道を上回っています。(全国87.9%、全道83.6%)

○朝食を毎日食べている割合が80.3%で、全国・全道を下回っています。(全国84.8%、全道81.8%)

学力向上の取組
小学校A校

小学校4校の平均(%)

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科	5教科計
A	70.0	50.0	63.0	43.0	56.0	282.0
B	78.0	61.0	80.0	52.0	66.0	337.0
C	69.0	49.0	56.0	45.0	55.0	274.0
D	72.0	56.0	68.0	53.0	61.0	310.0

○全国学力・学習状況調査の結果を分析し、実態と課題を全教職員で共有したり、家庭学習の取組を点検・改善したりしています。

○長期休業中や休み時間、放課後を活用して、補充学習に取り組んでいます。

○「生活リズムチェックシート」を活用し、保護者と連携しながら児童の生活習慣の見直しを図っています。

小学校B校

○「めあて」、「まとめ」、「振り返り」のある授業や「習得型」と「課題解決型」の授業を実施しています。

○全国学力・学習状況調査を分析して、授業に求められることを把握し、授業づくりの視点としています。

○全国学力・学習状況調査で正答率が低い問題の系統性を見直し、どの学年のどの単元と関わっているか明確にして、授業改善を図っています。

小学校C校

○各種テストに数値目標を設定し、宿題の内容の定着度を確認し、学び直しをしたりして、授業改善と学力の低い層の底上げを図っています。

○「家庭学習のすすめ」の活用や家庭学習強調週間を定期的に設定し、家庭学習の習慣化を図っています。

○中学校区の学習や生活のきまりを活用し、他校の授業参観を行うなど、

授業改善に取り組んでいます。

小学校D校

○考えを伝え合い、自分の考えを高め合う場の設定や授業の「振り返り」や練習問題を確実にを行うなど、授業改善を図っています。

○定着率の低い学習内容を重点的に取り上げ、定着を確認するために、小テストを実施しています。

○少人数による計画的な授業の実施や朝学習、放課後サポート学習で個に応じた指導の充実を図っています。

中学校

教科に関する調査
《平均正答率》

北斗市内中学校 各教科の平均正答率(%) 3年生 447名

	国語A	国語B	数学A	数学B	理科	5教科計
北斗市	77.0	61.0	64.0	45.0	67.0	314.0
全道	77.0	61.0	65.0	46.0	67.0	316.0
全国	76.1	61.2	66.1	46.9	66.1	316.4
全道差	0.0	0.0	-1.0	-1.0	0.0	-2.0
全国差	0.9	-0.2	-2.1	-1.9	0.9	-2.4

○中学校では、国語A、理科の2教科で全国の平均正答率を上回っています。国語Bでは、全国の平均正答率を下回っていますが、全道の平均正答率と同じです。数学A、数学Bでは、全国、全道の平均正答率を下回っています。

○国語Aでは、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国の平均正答率を上回っています。「書くこと」、「読むこと」では、全国の平均正答率を下回っています。

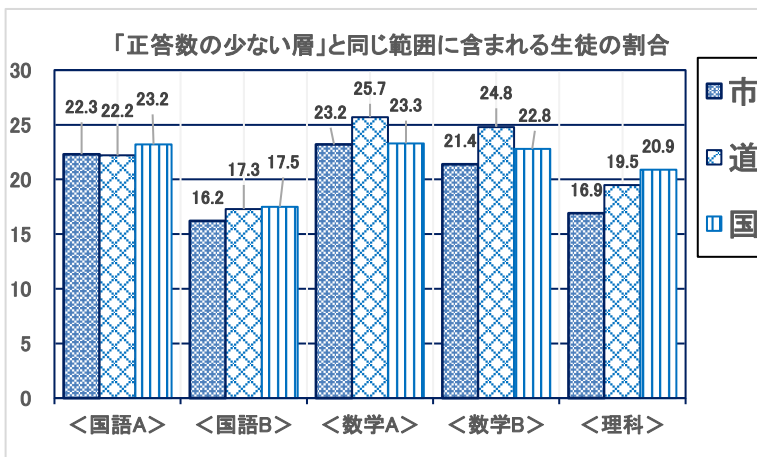
○国語Bでは、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」で全国の平均正答率を上回っています。「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国の平均正答率を下回っています。

○数学Aでは「資料の活用」で全国の平均正答率を上回っています。「数と式」、「図形」、「関数」で全国の平均正答率を下回っています。

○数学Bでは、「関数」で全国の平均正答率を上回っています。「数と式」、「図形」、「資料の活用」で全国の平均正答率を下回っています。

○理科では、「化学的領域」、「生物的領域」、「地学的領域」で全国の平均正答率を上回っています。「物理的領域」では、全国の平均正答率を下回っています。

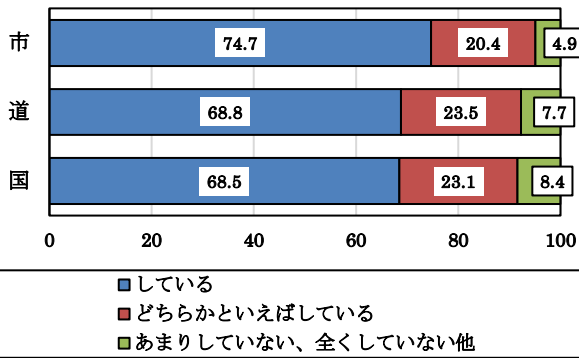
《正答数の少ない層の状況》



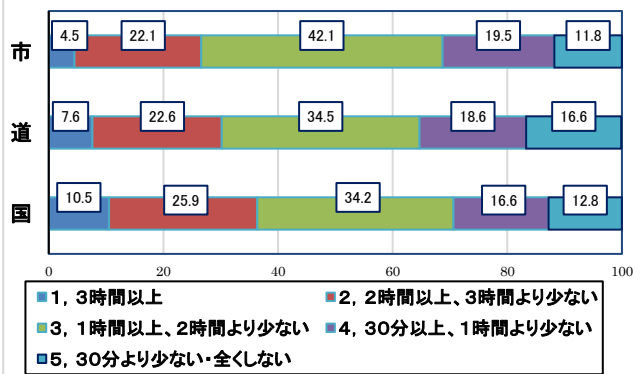
○中学校では、国語B、数学A、数学B、理科の4教科で、全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合が下回っています。国語Aについては、全国を下回りましたが、全道を上回っています。

《無解答率の状況》
○全教科118問(国語A32問、国語B9問、数学A36問、数学B14問、理科27問)中で、国語Aで2問が全国の無解答率を上回り、理科の1問が全国と同じになり、他の115問で全国を下回りました。

家で学校の宿題をしていますか（中学校）



学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれだけの時間、勉強しますか（学習塾や家庭教師も含む）＜中学校＞



半力向上の取組
中学校A校

中学校3校の平均正答率(%)

	国語		数学		理科	5教科計
	A	B	A	B		
A	79.0	61.0	66.0	48.0	67.0	321.0
B	76.0	62.0	62.0	42.0	67.0	309.0
C	76.0	61.0	67.0	45.0	66.0	315.0

生徒に対する質問紙調査

○学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日まで）、学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含むで、1日あたり2時間以上勉強している割合が全国・全道を下回っています。（北斗市26.6% 全国36.4% 全道30.2%）
○家で、学校の宿題をしている割合が北斗市74.7%で全国・全道を上回っています。（全国68.5% 全道68.8%）
○朝食を食べている割合が73.4%で、全国・全道を下回っています。（全国79.7% 全道77.9%）

○「主体的・対話的で深い学び」を指した校内研修と全教師による授業公開を実施して授業改善を図っています。
○学習習慣の確立のための指導を学校・家庭・地域と連携して取り組んでいます。
○放課後学習や長期休業中の学習会等の補充学習を行い、学力の向上を図っています。

中学校B校

○NRT検査、全国学力・学習状況調査等の結果を分析・交流し、授業計画に反映させています。
○発展学習・基礎学習の機会を確保し、個に応じた指導の充実を図り、学力の向上を目指しています。

○校区で授業の進め方や「学習・生活のスタンダード」の習慣化を目指すとともに、確認テストで定着を図っています。

中学校C校

○チャレンジテストの活用やタブレットを各教科学習で使用し、学習意欲の向上を図っています。
○小中連携研修会を実施し、9年間を見通した教育課程の構築に向け、校区小学校と協議しています。
○校区の小学校や家庭・地域と連携したり、「家庭学習強調週間」を設けたりするなどして、学習習慣の定着を図っています。

北斗市の子どもたち

○「将来の夢や目標を持っていますか」という質問に対し、「持っています」と答えている児童生徒の割合が全国・全道を上回っています。（小学生 市70.3% 全国68.2% 全道67.9% 中学生 市47.7% 全国45.3% 全道45.1%）
○「学校のきまりを守っていますか」という質問に対し、「守っています」と答えている児童生徒の割合が全国・全道を上回っています。（小学生 市45.6% 全国43.8% 全道39.8% 中学生 市66.4% 全国63.4% 全道62.0%）

学校よきと取組

○各学校が、全国学力・学習状況調査の結果を分析して、定着率の低い学習内容について、全教職員で共有し、重点的に取り組んでいます。

○北斗市の教職員は、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見付け、ほめたり、励ましたりする取組を行っています。（児童質問紙に「先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか」という質問がありますが、「思います」と答えた割合が、小学生では全国を上回り、中学生は、全国とほぼ同じ結果になっています。）

家庭へのお願い

○放課後の時間の過ごし方について、

家でテレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしている割合が、小学生・中学生ともにおよそ90%の割合を占めています。

近年、ネットトラブルで、中・高校生だけでなく、小学生も犯罪に巻き込まれる被害が多発しています。スマートフォンやパソコンなどの情報通信機器で、インターネットを長時間利用するなど、依存傾向が見られる実態もあるようです。学力や健康面、対人関係などへの悪影響が強く懸念されています。

ご家庭におかれましては、お子さんの家庭での過ごし方やゲームやスマホの利用について、お子さんと十分に話し合い、ルールを定めるなど、見直しをお願いいたします。

○朝食について、小学生、中学生ともに、「毎日食べている」と答えている割合が、ここ数年、全国・全道を下回っています。

個人差はありますが、夜ごはんを食べてから、8〜10時間近くエネルギーをとっていない体に、朝ごはんは重要な役割を担っています。「脳の働きを活発にし、集中力や記憶力が高まる」「体温が上昇し、代謝が高まる」等の効果があります。

子どもの成長には、調和のとれた食事や適切な運動、十分な睡眠が大切です。子どもたちによりよい生活習慣を身に付けていきたいものです。